

質の高い幼児教育・保育とは！？

—春の如く、持てる力の芽を促す—

≪「出会いの保育」で子どもたちは安全、安心を知る！≫

園長 山崎立哉

入園、進級して3週間が経ちました。新入園児さんは、朝の登園の別れ際の時、泣いている子どももいますが、ようやくこども園にも慣れてきた頃ではと思います。0,1,2歳児の小さい子どもたちは、出会いの保育も終り、通常保育に移られたと思いますが、疲れや気候の変化で発熱等が出て来る頃でもあります。連休が明ければ落ち着いてこれられると思いますので、もうしばらく子どもたちの体調管理に気を付けて下さい。

先月、新入園児の0,1,2歳児の子どもには、出会いの保育を行いました。この出会いの保育は、言葉の通り、お子様がこども園という環境や担当保育者と初めて出会い、新しい環境や保育者に馴染んでいく大切な準備期間です。他の園では一般的には慣らし保育と呼んでいます。出会いの保育は、これから子どもたちを預かる保育者にとっても、それぞれの子どもたちの状況を把握するにあたりとても大切な時間になります。

子どもたちは、生まれてから今まで「家庭」という慣れた環境、守られた環境の「家族」という単位の中で育てられて来ました。そのような環境から知らない大人(保育者)がいて、知らない子どもたちが大勢いて、しかも行ったことも、見たこともない場所に一人だけ置いて行かれるわけです。大人でも、初めての人や初めての場所は不安や恐怖があります。ましてや小さいお子様の心の状態は察して余るものがあります。子どもにとって初めて「家庭」以外の社会への旅たちになり、この時が人生にとって初めての社会生活のスタートとなるのです。

この出会いの保育を経て子どもたちは、こども園という場所が安全で安心できる場所だという認識を持ち、保育者は安心できる頼れる存在だという認識を持ち、そして「家庭」以外の違うコミュニティに参加しているという認識を持ちます。

このように出会いの保育は、1週間程度という短い期間ではありますが、お子様にとってとても大事な期間であります。この出会いの保育を経て、これから子どもたちは大いに自分らしさを発揮してくれることでしょう。保護者の皆様のご理解とご協力誠にありがとうございました。